

平成 21 年 6 月 13 日
月心会 西東京本部 浜田山支部
畠山 由香

「空手道で一番苦しかったこと」

私が月心会に入会したきっかけは、三男が満三歳を迎える頃、父親と兄二人の空手を練習する姿を見続け、「僕も空手をやりたい」との一言でした。

私の学生時代は、文化系の部活動のみで、スポーツには縁のなかった私が、精神的にも体力的にも続けられるものか心配でした。週一回の練習なら続けることが出来そうだと考えておりましたが、昇級するに伴い練習の頻度が多い時間で、週三回となりました。それと同時に家事との両立が苦しくなっていました。

家族揃って同じ目標を持つということは、それ相応の努力と苦しみを経験しなければならないと痛感致しました。主人は仕事との両立、子供達は学業との両立をこなすのであれば、私は家事との両立、そして家族揃って第一の目標として、黒帯への昇段を目指してまいりました。

日々、時間の使い方を工夫し、今日まで続けることが出来たのは、宗家、そして西東京本部長の市川師範と浜田山支部長の御指導、そして家族の理解と協力があつたからこそと感じております。

琉球空手は、歳をとっても続けられるものと主人と話しております。子供達には空手を続ける意思を持ち続け、将来自分の家庭を持った時には、家族で同じ目標や共通の話題を持つ素晴らしさを伝えてもらいたいと考えております。